

# 二〇一四年 日中成人スポーツ交流 事業に参加して

西森 貞雄

六月六日から十一日まで五泊六日の日程で、「日中成人スポーツ交流事業」におけるテニスの選手として（中国の貴州省貴陽市）を訪れる機会を得た。前半の二日間が中国選手との交流の試合、後半の二日間が民族舞踊や景勝地を観る文化深訪である。

現地での行動日程はすべて中国側によって設定されており、自由行動の時間はほとんどなく、貴陽市のごく一部表面にしか触れること出来なかったが、テニス競技・文化探訪・食事・宿泊などすべての面で気遣いのこもったもてなしを受けた。

個人的には、試合は三戦全敗、三日目の夜からはげしい下痢で四日目の文化深訪や旅行中一番豪華だったという夕食会欠席、出発時と帰国時の集合時間に遅刻、送別会で拍手喝さいをあげた一しぼてん踊り」では間違えばかりといった具合で迷惑もおかけしたが、本当に貴重で楽しい体験をさせていただき感謝の気持ちいっぱいである。

今、貴陽市は大規模な都市

## 日中スポーツ交流



づくりの真っ最中で、高層・超高層ビル（アパート・マンションが中心？）の異様なままでの建設ラッシュである。その一方、大通りから一步露地裏のような小さな脇道に入ると、日中交流や政治・外交面での日中間のギクシャクした関係などとは無縁のような人々の粗末な露店などが目につく。底辺におかれた人々の生活の底上げや真の日中交流への道のは限りなく困難で長いことを痛感し、複雑な気分させられる。



左から、西山、西森、北原のみなさん

## 「悲しみと苦しみを繰り返さない」の誓いを新たに

田中正

終戦69年を迎える八月十五日、「戦争を語りつくす」といって、人権啓発センターで、百三十名の参加で開催されました。（高退協会員は、十五名が参加）

初めに退婦教・歌う会の皆さんの澄んだ声の、そして力強い、平和のうたの合唱があり、続いて二名の方が、戦争体験を語られました。

元小学校教員の宮地さんは、「満州からの引き上げ」と題して、満州ハルビンから韓国釜山までのお母さんと四人の子供たちの引き上げの苦労、大変さを自動車中や収容所での様子、切迫した状況を詳しく語られました。当時中一だった植野

には毎晩長時間にわたりお説教じみた話をしてしまったり謝罪（シエシエ）。でもKさんが稀に見る好人物あることを再認識。

そして、テニス・卓球・バドミントンの選手や関係者など六〇人ほどのメンバーのなかで、どうして私だけが下痢に見舞われたのかを考えると腹が立ってくる。（でも、ま

## 「8・15 戦争を語りつくす」に参加して

さんは、「広島で被爆して」というテーマで八月六日、学校農園に行く途中で被爆し、十日間意識不明で岩国の病院で気づいたという話をされました。幸いに被害も少なかった被爆者にとって、生き残ったことがいかにしんどかったか、そんなことをずっと負い目に感じさせてきた軍国主義教育の愚かさ、そして戦争の悲惨さ訴えられました。

講演は、高知大学の岡田先生が、「いま、憲法と平和を考える」というテーマでされました。憲法九条一項の「戦争の放棄」、二項の「戦力の不保持」そしてこれまでの政府解釈の「個別的自衛権」から「集団的自衛権」、そして本来国連の役割でもある「集団安全保障」への踏み込みの危険性を今まで着々と手を打ってきた「周辺事態法」「有事関連法制の整備」と絡めて説明されました。

また私たちが、自民党や安倍首相の言うものではなく、もう一つの「積極的平和主義」、本来の憲法九条、生存権をうたった二十五条、憲法の核心

## 未来をひらく教育のつどい 高校・障害児学校教育研究集会

テーマ「憲法、子どもの権利条約を教育に生かそう！」  
11月8日（土）全体会・課題別分科会  
会場：高知工業高校 13:00~18:00  
2月21日（土）教科別分科会  
会場：未定

ともいえる「すべて国民は、個人として尊重される」十三条を、「国民の不断の努力によって保持していかなねばならず」、次代の世代に守っていくことの重要性を訴えられました。最後に、①戦争世代の話を書く、②若い人の意見や置かれていた状況を書く、③貧困、差別など社会構造から発生する暴力がない「平和」、積極的平和主義につながる」とまとめられました。

